日本産フイリア属の4種について各々の形態・地衣成分・地理分布を記載し，近縁種との関係を論じた。内2種については新組み合わせを提唱した。*Huilia crustulata* は研究者によっては *Huilia macrocarpa* の異名とみなされているが，筆者は子のう層の厚さ，胞子の大きさで両者が区分される事を述べた。*H. elegantior* にはジロフォール酸を含むものと，コンフルエンチン酸を含むものが確認された。ところで，*H. elegantior* の lectotype はジロフォール酸を含有している事を本研究で明らかにしたが，日本産の場合は17点中にわずか1点の標本にこれがみられたにすぎない。この種の chemical variant は日本以外の地域ではどうなっているのか，種分化など考える場合，興味がもたれる。Zahlbruckner (1927) は山形県の姥湯産の標本に基づいて *Lecidea albocaerulescens* var. *flavocaerulescens* を報告し，Hertel (1977) もこの標本を見てこれを *Huilia* 属の独立種と考え，*H. flavocaerulescens* を提唱した。しかし，姥湯産をはじめとする日本産のものは，粉芽を備えず有子器であるため，粉芽を備え無子器の *H. flavocaerulescens* と同一種とは認め難いので，日本産のものは *Huilia flavicunda* (Ach.) M. Inoue として報告した。*H. flavocaerulescens* と *H. flavicunda* は Poelt (1970, 1972) のいう "species-pair" を形成しているが，前者の日本における分布は今のところ確認されていない。

---

□日下田紀三：**屋久島の四季** 127 pp. (内 104 pls.) 1982. 八重岳書房，東京. ¥5,800. 屋久島は有名である。本書は自然と人文との両面をねらっている。ヤクシマシャクナゲの開花や老杉のたたずまいなど毎度のことながらたくましい。ただ屋久島は自然の島として評判の島だからもう少し自然の表情を載せて欲しかったと思う。巻末には宮脇・鈴木両氏の屋久島の植物と植生，岡留氏の屋久島の動物，三木氏の屋久島の歴史及び著者による風土と生活が載せてある。 (前川文夫)

□本間　啓 (監修)：**世界と日本の街路樹** 192 pp. 1982. 日本交通公社，東京. ¥2,000. 世界の主要都市の街路樹を写真と文章とから軽く摑ませようとしたもので，それなりに豊富な写真は眼を楽しませるし，街路樹種の特徴と見分け方や世界の主要都市の主な街路樹一覧なども苦心して作られていると思う。ただ，風景写真に街路樹が見えにくかったり，東京の街路樹になぜか秋口が多いのも一寸気掛りであったし，p. 152 にあるけれども，日本も世界の主要都市として加えて欲しかった気がする。 (前川文夫)